



第 18 回（2015 年度）通常総会・地域シンポジウムを開催

平成 27 年 5 月 30 日

*本稿は日本環境共生学会, 日本シミュレーション&ゲーミング学会, および日本バイオ炭普及会の共同コピーライターのもとで執筆されており, 同文が各学協会の機関誌にも掲載されます。

第 18 回（2015 年度）通常総会・地域シンポジウムを、平成 27 年 5 月 30 日に立命館大学にて開催しました。午前 10 時半より、エクスカッション（立命館大学大阪いばらきキャンパス）、午前 11 時 15 分よりポスターセッション、午後 13 時より通常総会と地域シンポジウム、および夕方には交流会が開かれました。地域シンポジウムは、立命館大学地域情報研究所を主催とし、日本環境共生学会、日本シミュレーション&ゲーミング学会および日本バイオ炭普及会の共同開催、8 団体からの後援、2 団体からの協賛、および土木学会の後援および CPD プログラムの認定のもと開催されました（後援ならびに協賛団体名は記事の文末に記載*1）。



写真 1 パネルディスカッションの様子

エクスカッションは「大阪いばらきキャンパスの地域・社会連携コンセプトと市民参画」をテーマに開催されました。視察においては、キャンパスツアーでのガイドを務める学生らの案内のもと、2015 年 4 月に開かれた当キャンパスの設計コンセプトを、共生・地域連携の面より解説がなされました。

地域シンポジウムは、「地球環境変動と地域社会の連携とコミットメント - コンセンサス形成のための地域の相互学習から Future Earth 実現へ向けて -」をテーマとし、5 名の方々（基調講演者およびコーディネーターを含む）で活発な議論が

交わされました。今回のシンポジウムは、地球環境変動研究に深く関わる研究者たちの多い、学際を標榜する 3 つの学協会が共同で、地域社会の連携とコミットメントを通じて、地球環境変動の緩和と適応について考える場といたしました。とりわけテーマと致しました”Future Earth”は、現代を人類が地球環境を変えた時代としての Anthropocene（人新世）と位置づけ、人類が地球に与える負荷が大きくなりすぎると、気候、水環境、生態系などに内在する回復力（Resilience）の限界（地球の境界: Planetary boundaries）の範囲内に、人類の活動を収める必要があるという思想に根付いたものです。このような Future Earth では学術の専門家だけでなく、社会のさまざまなステークホルダー（利害関係者）が参加し、多様なレベルでの意思決定者（Decision Maker）や市民・国民と企業の関与をより高めることが求められます。

本シンポジウムでは、冒頭に広瀬幸雄氏（関西大学社会安全学部教授）より「EU における環境関連計画での参加と合意形成の動向」を基調講演として賜りました。広瀬氏からは、福島原発事故後の環境計画では市民・行政・専門家の参加に基づく合意形成がこれまで以上に必要とされているという意識のもと、EU で開発された合意形成のための参加型会議の計画への合意形成における位置づけについて、利害関係者・市民・専門家の協働によるハイブリッド型会議が行われたカールスルーエの交通計画に関するフィールドワークでのエピソードを踏まえた非常に有益な事例報告を提供していただきました。

広瀬氏の基調講演を踏まえ、パネリストとして 3 名の方々にご参画いただき、松原克志氏（常磐大学国際学部学部長）のコーディネートののもと、パネルディスカッションを行いました。最初にスティーブン・R・マックグリービー氏（総合地球環境学研究所特任助教）からは、カーボン

マイナスプロジェクトなどの農村地域の持続可能開発の経験を踏まえつつ、持続可能性の考え方についてご説明を頂きました。次に中村晋一郎氏（名古屋大学大学院工学研究科専任講師）からは、都市での里川再生にむけた市民との協働を踏まえ、都市の水環境再生の課題と可能性について情報を提供していただきました。最後に杉浦淳吉氏（慶応義塾大学文学部教授）からは、コンセンサス形成のためのゲーミングシミュレーションの役割に関する洞察を、「クロスロード」などのゲームの開発実践の経験を踏まえてお話いただきました。

このように地域シンポジウムでは、**Future Earth** を切り口としつつ、ローカルな現場での実践について闊達に議論することができ、環境共生の基本である **Think Globally, Act Locally** につながるような視点を、参加者一同（311名）が共有する機会を得ることができました。

またシンポジウムのみならず、同日午前で開催されたポスターセッションでは、8編の発表があり、広く有意義な研究討議が実施されました。今回のポスターセッションは前半に発表セッション、後半に対話セッションを設けました。前半では円弧状に設計された発表スペースにて、発表者による口頭の発表が行われました。後半ではポスターを添付したパネルの前で発表者と参加者による自由対話がなされました。上記のセッションは厳正な審査の下、ポスター優秀発表賞の受賞者が選考され、日本環境共生学会第18回学術大会で授与されます。



写真2 ポスターセッション（発表）の様子

さらに、シンポジウムに先立って開催されたセミナー「東南アジアにおけるバイオマスの活用とバイオチャー」では、沖森泰行氏（株式会社環境総合テクノス）よりバイオ炭導入の現状と課題について、海外や国内での活動について活発な報告が行われました。

本シンポジウムは大変有意義なご講演・発表、様々な観点からの質疑が活発に行われ、高い評価を受けて盛会となりました。主催いたしました側として、参加されたみなさまには今後の研究・取り組みに対する何らかの御示唆を少しでも得ていただけたのではないかと確信しています。関係各位に心より感謝申し上げる次第です。

実行委員長・学会理事 鐘ヶ江秀彦（立命館大学・3学協会理事）

実行副委員長 小野 聡（立命館大学・日本環境共生学会）

豊田 祐輔（立命館大学・日本シミュレーション&ゲーミング学会）

田藤 裕祐（立命館大学・日本バイオ炭普及会）

表 第18回（2015年度）通常総会・地域シンポジウムのプログラム

行事	時間	内容	場所
エクスカージョン <45分>	10:30 11:15	「大阪いばらきキャンパスの 地域・社会連携コンセプトと市民参画」 *希望者のみ	立命館大学 大阪いばらきキャンパス内
ポスターセッション <105分>	11:15 13:00	発表セッションと対話セッション の2部構成	B棟2階 R-AGOLA
2015年度 通常総会・表彰式 <50分>	13:00 13:50	通常総会議事	各学協会会場
地域シンポジウム <180分>	14:00 17:00	基調講演・パネルディスカッション	B棟2階 グランドホール
研究交流会 <140分>	17:10 19:30	意見交流会・意見交換会	B棟5階 産学連携ラウンジ

*1 当シンポジウムは土木学会、日本地域学会、日本都市計画学会、日本計画行政学会、木質炭化学会、立命館大学政策科学会、茨木市、亀岡市、茨木商工会議所より後援を、またサントリーコーポレートビジネス（株）、亀岡クルベジ育成会より協賛を賜りました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。